

制作概要(作品集より抜粋)

日常の様々な場面で集中力、記憶力の著しい減退を自覚するようになってからも既に何年も過ぎた。また、この年になると「思い」は自然に過去へと回遊するようになるのであるならば、この際、これからの人生を考えるよすがとするためにも一区切りつけてみようと思い腰を上げた。モチロン、これは集大成ではなく、メモ、覚書き程度のものである。

さて、腰を上げたものの資料発掘の煩瑣さは半端ではない。その都度整理してきたつもりでも、いつの間にか資料が一人歩きして移動したとしか思えないようなところから現れたり、長い間行方不明で半ば諦めていたものが、日常最も近い視界にある抽出しの底から見つかったりした。その労力の割には、かなりの欠落があったことはいかんともしがたく、当初計画していた年代別のカタログレゾネは断念せざるを得なかった。

日本画の伝統を離れて、ボクは一人新しい表現法を模索するようになった。ガリ版印刷に使う宛名用の小さなローラを細く削り、それを画布の上に転がしながら不器用な線をあえて求めた。器用に流れるのを警戒してのことだが、このころから、人為的、作為的ということ意識するようになった。そこに人間の営為における究極のなにかがあるのではないかという遙かな思いがあった。

また、ビニールパイプに針金を通し、自由に曲げてはインクをつけて紙に押しつけて転写するという方法で作品をつくり続けた。このときの作品の一部を収録したが、これはいわば私のデビュー作といえるものである。

この時期はマンガのコマ割りの形式をとり入れいる。正方形を基本とし、上下左右に連結させていくユニット形式で表現の発展や変化を狙ったものである。このときの作品が1999年の「現代版画・21人の方向展」(国立国際美術館・大阪)で展示されたが、これは1965年の「現代美術の動向展」(国立近代美術館・京都分館)に展示されたものとは一連の作品である、そして、その間に横たわる時間を振り返って感慨を禁じ得なかったことが、今回、作品集を編もうという行為へつながっていったのだと思う。

中馬 泰文

「WORKS 1965/1983-2003」

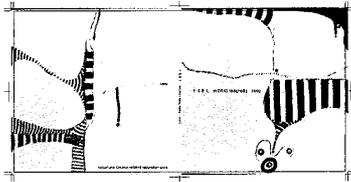
作品集

中馬泰文個人展 (大阪・番画廊)

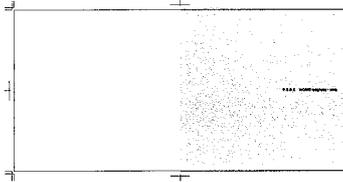
作品集のサムネル

ページ割を企画。

一般的な編集は過去から現在へと記録されるが、今回の編集は現在より過去20年前にさかのぼる形式をとる。自己の制作活動の起点になった1965年のデビュー作を巻末に組み込み編集の骨子にした。



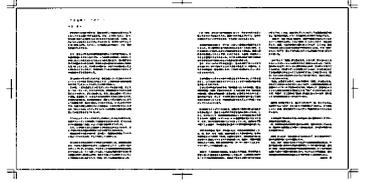
表紙
1965年制作の作品にて装幀



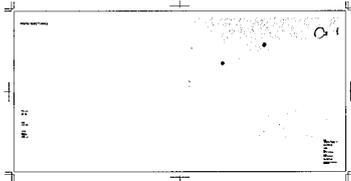
とびら
自筆サインをデザイン



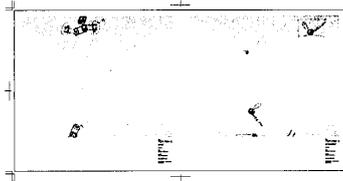
1-2頁
美術評論家高橋亨氏の巻頭のことば



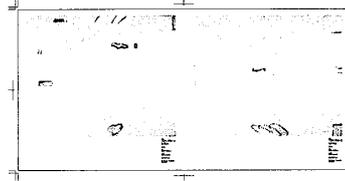
3-4頁
編集概要をコメント



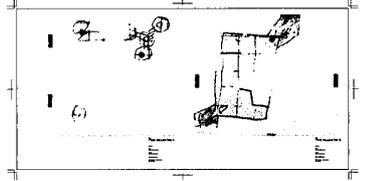
5-6頁
2003年の個展出品作（150号F）5点を編集。制作テーマ「TOYシリーズ」



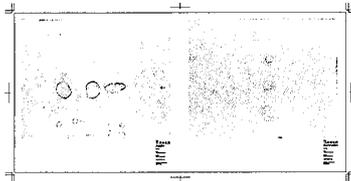
7-8頁



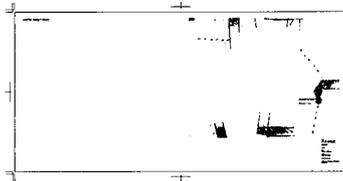
9-10頁



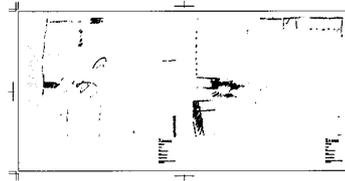
11-12頁
2001年制作の2連作（150号F）



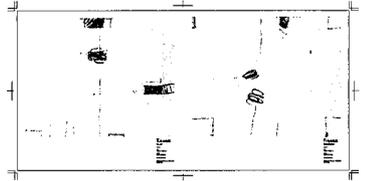
13-14頁
（100号F）5点「気配シリーズ」



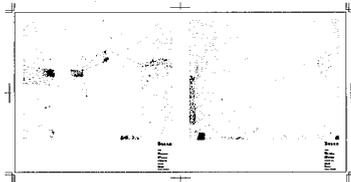
15-16頁



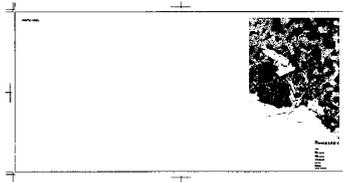
17-18頁



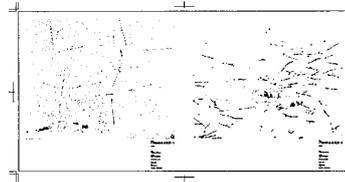
19-20頁



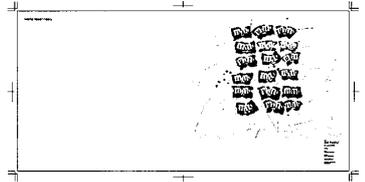
21-22頁
1995年制作の作品「感情シリーズ」



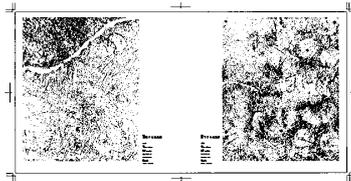
23-24頁
1992年制作の作品「ITEMのある光景シリーズ」



25-26頁



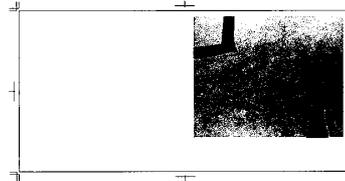
27-28頁
1993年制作の作品「AIR PACKシリーズ」



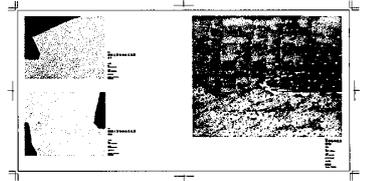
29-30頁
1990年制作の作品を「金魚鉢シリーズ」



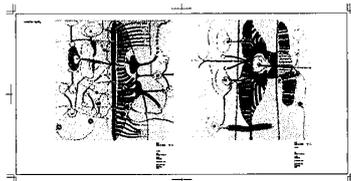
31-32頁



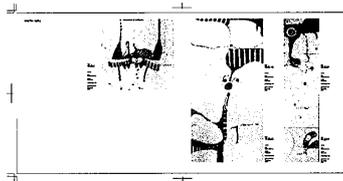
33-34頁
1988年制作の作品を「光景シリーズ」



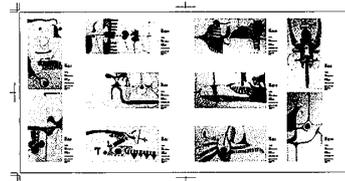
35頁 36頁
1983年制作の作品「光景シリーズ」



37-38頁
1965年制作の作品をモノクロにて編集



39-40頁



41-42頁



43-44頁
展覧会歴



45-46頁
奥付

本の形体を過去の個展時に作成したパンフレット（2部）と同形状にして一貫性を持たせた。形状的には正方形に近似であり、収録する作品群がF100号・F150号の横であるため、データーを作品右下に配し、縦に制作された作品は左右にそれぞれデーターを配した。1965年制作の作品は現在、再撮影不可能であるため、過去に撮影したモノクローム写真を使用し、2003年より1983年までの作品との距離をとった。

中馬 泰文

TOY/Kit-1
gear

2003年9月

SILK SCREEN CG/INKJET PRINT
箱 PEARL POEDER CANVAS

2273X1818 mm

